

令和3年12月16日
於
府中市立教育センター

令和3年第12回

府中市教育委員会定例会議事録

府中市教育委員会

令和3年第12回府中市教育委員会定例会議事録

1 開 会 令和3年12月16日(木)

午後3時00分

閉 会 令和3年12月16日(木)

午後3時32分

2 出席者

教育長 酒 井 泰 委員 平 原 保

委員 新 島 香 委員 増 渕 達 夫

3 欠席者

委員 日 野 佳 昭

4 出席説明員

教育部長 赤 岩 直 文化スポーツ部長 関 根 滋

教育部次長兼教育総務課長 文化生涯学習課長 二 村 善 久

矢ヶ崎 幸 夫 ふるさと文化財課長 江 口 桂

教育部副参事兼指導室長 スポーツ振興課長 市ノ川 恵 一

並 木 茂 男 図書館長 平 野 妙 子

教育総務課長補佐 矢 島 彩 子 図書館長補佐 田 口 宏 治

学校施設課長 町 井 香 美術館副館長 相 馬 修 央

学校施設課長補佐 遠 藤 勝 久 美術館副館長補佐 鎌 田 享

学務保健課長 佐 伯 富 丈

給食センター所長 谷 本 耕 一

給食センター副所長 大 木 忠 厚

指導室主幹 目 黒 昌 大

統括指導主事 菅 原 尚 志

統括指導主事 酒 井 章

指導主事 國 廣 淨 和

指導主事 蓮 沼 喜 春

5 教育委員会事務局出席者

教育総務課主任 徳 永 昭 子

教育総務課事務職員 森 菜 摘

議 事 日 程

第1 議事録署名員指名について

第2 会期決定について

第3 議 案

第4 1号議案

不登校特例校の整備の方向性について

第4 報告・連絡

- (1) 寄附の採納及び感謝状の贈呈について
- (2) 家庭学習啓発資料の配布について
- (3) 図書館オンライン講演会「今こそ子どもと考えよう！インターネットのこわさと正しい使い方」について
- (4) 企画展「池内晶子」展の開催について

第5 その他

第6 教育長報告

第7 教育委員報告

午後3時00分開会

○教育長（酒井 泰君） ただいまより、令和3年第12回府中市教育委員会定例会を開会いたします。

本日の定例会において、日野委員が都合により欠席する旨の届出を受けておりますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により、教育長及び在任委員の過半数の出席を得ておりますので、この定例会は有効に成立いたします。

_____ ◇ _____

○教育長（酒井 泰君） 日程第1、議事録署名員指名につきまして、本日の教育委員の議事録署名員は、平原委員にお願いいたします。

_____ ◇ _____

○教育長（酒井 泰君） 日程第2、会期決定でございますが、会期は本日一日といたします。

_____ ◇ _____

◎傍聴許可

○教育長（酒井 泰君） 傍聴希望者がおりますので、許可してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） それでは、許可いたします。

_____ ◇ _____

◎第41号議案 不登校特例校の整備の方向性について

○教育長（酒井 泰君） 日程第3、第41号議案の審議に入ります。議案の朗読をお願いします。

（事務局朗読）

○教育長（酒井 泰君） 説明をお願いします。

○指導室主幹（目黒昌大君） それでは、ただいま議題となりました第41号議案につきましてご説明いたします。本議案は、不登校特例校の整備の方向性についてをお示しするものでございます。

それでは、議案書1ページをご覧ください。

まず、1の利用者等ですが、中学生を対象とし、各学年10名程度、全体で最大40名を想定するものでございます。

次に、2の設置場所ですが、府中市清水が丘1丁目3番地でございます。当該場所は、令和2年度まで府中市立しみずがおか高齢者在宅サービスセンターとして活用されておりました。先に議決いただいております教育センターの移転予定地と同様であり、移転後の教育センターの中の機能の一つとして整備してまいりたいと考えております。

最後に、3の設置予定時期ですが、令和7年4月を予定しております。

説明は以上でございます。よろしくご審議くださいますようお願いいたします。

○教育長（酒井 泰君） 事務局の説明が終わりました。何かご質問はございますか。

○委員（増淵達夫君） この不登校特例校については何回かお話が出ていますので、ぜひ進めていただきたいと思います。最近では都内にも不登校特例校が次々と出ていますので、そういった前例や取組を参考にしていきたいと思うのですが、見学や視察は今までに

されているのでしょうか。

○指導室主幹（目黒昌大君） 既に事務局及び整備を担当する市長部局の建築の技師とともに、調布市の「はしうち教室」に視察をさせていただいております。また、今後、既に都内に設置されている公立の不登校特例校として、福生市ですとか、今年度開校した大田区、また、来年度開校予定の世田谷区などの視察を進められたらと考えております。

○委員（増淵達夫君） この不登校特例校はこれから様々できてくるとは思いますけれども、「はしうち教室」とか、そういった類いのもの、まだまだ充実が必要になるとは思いますので、前例を見ながら進めていただければと思います。これは前にもお話ししましたが、不登校特例校は、不登校対策の一つ、大きな柱の一つとして、全体の不登校施策の中でどう位置づけていくか、その辺りも併せて考えていければと思っております。

○教育長（酒井 泰君） ほかに何かご質問ございますでしょうか。

○委員（新島 香君） この不登校特例校の整備について、市民への周知というのはいつ頃になりそうですか。

○指導室主幹（目黒昌大君） 本日、この教育委員会において議決をいただきましたらば、まず、市長への報告等を進め、今後、年度内に市議会に報告していく形になると思います。その後、順次市民向けに周知というような段取りになりますので、目途としまして、令和4年3月から4月頃になるのではないかと考えているところでございます。

○教育長（酒井 泰君） ほかにご質問ございますか。それでは、ご意見ございますか。よろしいでしょうか。

それでは、お諮りいたします。第41号議案「不登校特例校の整備の方向性について」、決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○教育長（酒井 泰君） 全員異議なしですので、原案どおり決定いたします。



◎寄附の採納及び感謝状の贈呈について

○教育長（酒井 泰君） それでは、日程第4、報告・連絡ですが、報告・連絡の（1）を、教育総務課、お願いします。

○教育総務課長補佐（矢島彩子君） それでは、資料1の「寄附の採納及び感謝状の贈呈について」をご報告いたします。

今回は1件でございまして、学校教育の振興に供するために寄附されたものでございます。寄附の採納先は、府中第一小学校でございます。寄附品は、マーチンググロックン3台15万6,000円、メジャーバトン5本12万2,500円、飾り紐5本2万5,000円、折りたたみコンテナ2組2万7,000円、オリコン蓋ブルー2組1万300円、寄附者は府中市立府中第一小学校PTA様、受領日は令和3年11月9日でございます。

なお、府中市教育委員会表彰規定第9条の規定によりまして、委員会が適当と認めたときは感謝状を贈呈できることとなっており、取扱い上10万円相当額以上の寄附を対象としていますので、贈呈いたします。

以上でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○教育長（酒井 泰君） 何かご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、報告・連絡の（１）について了承いたします。



◎家庭学習啓発資料の配布について

○教育長（酒井 泰君） 続きまして、報告・連絡の（２）を、指導室、お願いします。

○指導主事（蓮沼喜春君） それでは、資料２に基づきまして報告をいたします。

指導室では、令和３年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、家庭学習啓発リーフレット、「ご家庭で４つのことに取り組んでみませんか」を作成いたしました。

このリーフレットは、全国学力・学習状況調査における児童・生徒質問紙調査の分析結果から、平均正答率との相関関係が強く見られる項目についてまとめ、児童・生徒に基本的な生活習慣を身につけ、学習習慣を確立するなどのために、家庭でできることから取り組んでみませんかとして、４点を提案したものです。学校を通じて市立小・中学校に通う全家庭に配布するとともに、１２月の保護者会や三者面談等で紹介するなど、保護者への啓発に活用しております。また、現在、教育委員会ホームページにも掲載しております。

指導室では、引き続き学校と家庭が連携しながら、児童・生徒の学力向上を図るための取組を推進してまいります。報告は以上でございます。

○教育長（酒井 泰君） 何かご質問、ご意見ございますでしょうか。

○委員（増淵達夫君） 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて、それを保護者にこういった形で返すというのは、とてもいい取組だと思います。学びとは、学校の中、教室の中だけではなくて、社会全体で取り組んでいくという意味もありますし、もちろんそういった意味では、家庭と一緒に取り組んでいくということは欠かせないと思います。学ぶ意義について、なぜ学ばなくてはいけないのか、そういったことを常に家庭も一緒になって考えながら、子供が探究できるような、そんな環境づくりの一つになると思います。

また、全国学力・学習状況調査の結果、例えば、都内や全国の平均からすると、概ね良好ということにはなるかもしれませんが、平均は平均であって、やはり誰一人として取り残さない、個別最適な学習ということを考えると、誰もができるようにしていくということが基本のスタンスだと思います。そういったことから、とても素晴らしい取組だと思いますので、ぜひご家庭にもご理解をいただきたいと思います。以上です。

○教育長（酒井 泰君） ほかにございますでしょうか。

○委員（平原 保君） 私はこれを拝見しまして、学力向上ということについて、基本的な生活習慣と学習習慣ということに重点を置いていると思います。やはり習慣というのは、子供にとって大きな財産になっていくと思いますので、内容もさることながら、子供がこうした基本的な生活習慣を身につけたり、規則正しい生活をしたりする、そういった部分を育てていくということからすると、非常に重要なことだなと考えました。以上です。

○教育長（酒井 泰君） ありがとうございます。

○委員（新島 香君） 私も、とてもいいリーフレットだなと感じました。こういうことを提案して、こういうことをやっていくのはどうでしょうという働きかけとして、とても見やすい紙面になっていると思います。これを投げっぱなしにするのではなくて、やってみてどうでしたかという問いかけを繰り返しやっていくことが大事だと思います。保護者も忙しい生活の中で、実行できていたかどうかという振り返りをする時間をなかなか持てないので、

時々思い出せるように、こういったものを適宜配り、保護者に思い出してもらうことも大事だと感じました。もし可能であれば、そういった働きかけもしていけるといいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○教育長（酒井 泰君） ほかにありませんでしょうか。

それでは、報告・連絡の（２）について了承をいたします。



◎図書館オンライン講演会「今こそ子どもと考えよう！インターネットの
こわさと正しい使い方」について

○教育長（酒井 泰君） 報告・連絡の（３）を、図書館、お願いいたします。

○図書館長補佐（田口宏治君） それでは、図書館から、お手元の資料に基づき、図書館講演会についてご報告いたします。資料３をご覧ください。

中央図書館では、小学校４年生以上の児童・生徒並びにその保護者を対象としたオンライン形式での講演会「今こそ子どもと考えよう！インターネットのこわさと正しい使い方」を開催いたします。コロナ禍において、子供たちのインターネット利用機会が急激に増え、リテラシー教育に不安を持つ保護者が多くおられる中で、情報収集のツールであるインターネット活用の有用性だけでなく、利用に伴うリスクについても学べる場の提供を目的とし、医療創生大学心理学部教授の中尾剛先生を講師に招き、この講演会を開催するものです。

講演は二部制で、第一部は、子供向けに「ネットトラブルってどんなもの？」、第二部は、保護者向けに「親が考える子どものネットリテラシー」をテーマとして構成しております。

ウェブによる配信期間は令和４年２月１１日から３月３０日までで、市の公式ユーチューブチャンネルでの申込者への限定配信で、どなたでもお申込みいただけます。また、集団での視聴についても講師の許諾済みですので、クラスや保護者会、学校単位での視聴も可能です。配信の申込み受付期間は令和４年１月１１日までで、手続はインターネットでの申込みで、お手元のチラシの記載の二次元コード、または、図書館ホームページに記載のURLから２４時間受付をしております。URLは、府中市配信メールでも送信しております。また、公開初日の２月１１日には、ルミエール府中１階第１・第２会議室にて、配信と同じ講演会動画を放映いたします。

お申込み方法等は記載のとおりで、児童・生徒をはじめ、子供を取り巻く多くの方にご視聴をいただきたいことから、校長会でのご案内、市内小・中学校、各学童クラブへお手元の資料と同内容のポスター送付のほか、子ども家庭支援センターたち、教育センター窓口などで二次元コード記載のチラシを既に配布しております。

委員の皆様におかれましても、ぜひご視聴をいただきたくご案内申し上げます。以上です。

○教育長（酒井 泰君） 何かご質問、ご意見ございますでしょうか。

○委員（平原 保君） GIGAスクール構想の整備が進んで、子供たちにとってインターネットが非常に身近なものになってきていると思います。そこで、学習や生活における利便性や有効性というものを保障するためにも、この事業はとても大事な事業だと感じました。私もこのチラシを事前に頂いたので、ホームページから申込みをさせていただきました。一緒に勉強をさせていただこうと思います。

申込みをする中で、視聴される方のカテゴリーがあって、「その他」のところに「学校関

係」、それから「クラス単位」での視聴とありました。私は「その他」「学校関係」を選択し、一言何かメッセージを書いてくださいということでしたので、書かせていただきました。これを学校にどのように周知するのかをお聞きしようと思っていたのですが、先ほどのご説明によると、校長会で既にチラシを配布されたということで、子ども向けの小学校4年生以上の部については、授業時間内に視聴できるような、1単位時間の中で十分扱えるものです。ぜひ学校で、この時期に取り組んだらどうかと思っています。よろしく願いいたします。

○教育長（酒井 泰君） ほかにご質問、ご意見ございますか。よろしいでしょうか。

それでは、報告・連絡の（3）について了承いたします。



◎企画展「池内晶子」展の開催について

○教育長（酒井 泰君） 報告・連絡の（4）を、美術館、お願いいたします。

○美術館副館長補佐（鎌田 享君） 美術館から次回企画展についてご報告をいたします。

府中市美術館では、12月18日土曜日から2月27日日曜日まで、企画展「池内晶子あるいは、地のちからをあつめて」を開催します。観覧料などは記載のとおりですが、市内小・中学生は、学びのパスポートの提示により無料で観覧となります。

池内晶子氏は、1967年に調布市で生まれ、その後、稲城市で育った多摩地域ゆかりの現代美術家です。絹糸を展示室の中に張り巡らすことで、様々な形を創り出す繊細なその作品は、全国的に高い評価を集めています。今回の展覧会では、府中市美術館に合わせて、オリジナルの新作を発表します。地域ゆかりの注目作家の最新作を、この機会にぜひご鑑賞ください。

なお、企画展の会期中、常設展示室では、「府中・多摩の美術探訪」ほかのテーマで、府中市美術館の所蔵品を展示します。また、公開制作室では、現代美術家、岩井優氏による作品制作「ハウツー・クリーンアップ・ザ・ミュージアム」を実施します。

引き続き新型コロナウイルス感染症への対策を十分に行った上で開催いたしますので、ぜひご覧いただきますようご案内申し上げます。

最後に、11月28日まで開催していた開館20周年記念「動物の絵」展については、3万8,320人の方にご来場いただき、歴代2位の入館者数となりましたことを併せてご報告申し上げます。以上でございます。

○教育長（酒井 泰君） 何かご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、報告・連絡の（4）について了承いたします。



◎その他

○教育長（酒井 泰君） 日程第5、その他ですが、何かございますでしょうか。



◎教育長報告

○教育長（酒井 泰君） それでは、日程第6、教育長報告に移ります。

活動状況については、別紙の令和3年第12回教育委員会定例会教育委員会活動報告書のとおりでございます。なお、この報告書は、令和3年11月13日から令和3年12月10日までの活動内容となっております。

それでは、私から若干報告をさせていただきます。

1点目は、11月27日土曜日に府中第五中学校を会場にして開催されました生徒会リーダー研修会についてです。昨年度及び今年度の前半は中止を余儀なくされましたが、今回は感染防止対策を徹底して、どうにか開催することができました。今回で第77回目、40年間続く府中市の伝統ある取組です。生徒会活動が目指す自主的な活動を促進することを目的に、全ての中学校の生徒会本部役員を集めて交流会形式で開催されているものでした。今回のテーマは「リーダーシップとは」でした。10のグループに分かれて活発な意見交換がなされ、感染防止の観点からリモートでまとめの会を実施しました。今回の研修会が良い機会となつて、各学校、中学校での生徒会活動が一層充実したものになることを期待しています。

2点目ですが、12月2日木曜日に府中の森芸術劇場ふるさとホールで開催された府中市立小・中学校特別支援学級連合学芸会のうち、中学生の部のみ参観させていただきました。当日は、合唱、ハンドベルの演奏、合奏、劇を鑑賞させていただきましたが、いずれの学校も素晴らしい内容で、コロナ禍の中、感染防止を徹底しつつの練習は、さぞかし大変であったと思います。その成果を立派に発表することができて、生徒たちは達成感にあふれた表情をしていたことが印象に残っています。

3点目は、12月6日月曜日に府中の森芸術劇場どりーむホールで開催されました小学校オーケストラ鑑賞教室を参観させていただきました。感染防止のため、三部制として、1回当たりの演奏時間は45分というものでしたが、初めて生のオーケストラの演奏を聴く児童もいまして、会場は感動に包まれていました。この事業はかなりの予算が必要なものですが、中学生のオーケストラ鑑賞教室も含めて、児童・生徒にとって意義深く、素晴らしい思い出となるものであると強く感じました。

4点目は、12月7日火曜日に、府中市の文化財に指定すべきと府中市の文化財保護審議会から答申をいただいております古民家住宅を訪問させていただきました。江戸時代から続くお宅の建物や敷地内のお庭等を拝見させていただいたのですが、歴史的に誠に貴重なものばかりで、府中市民全体の財産として、これからも適切に保存していく必要があると強く感じました。

5点目ですが、12月8日水曜日に開催されました中学生「税についての作文」コンクール表彰式へ参加させていただきました。府中市内中学校12校から1,750点もの応募があった中から、優秀作品に選ばれた生徒に対して表彰を行ったものでした。当日配布された受賞作品集を読ませていただきましたが、この作文が税について深く考える良い機会となったことを感じました。

6点目ですが、ICTを活用した授業についてお話をさせていただきたいと思います。各小・中学校の先生方のご努力下、活用の幅が大きく広がっています。教育委員会のホームページでも授業の様子を写真でご覧いただけるようになっていますが、学習のツールとしての活用が一層進んできていると思います。一層の活用が図られるよう、教員向けにおよそ100の指導事例を掲載するコンテンツも用意して、各学校の校長を通じて、指導の参考にするように働きかけをしています。また、冬季休業に向けて、タブレット端末の持ち帰りを行い、学習コンテンツ等を活用して、学習の振り返りに活用してもらうことを予定しています。なお、タブレット端末のセキュリティーについては、今学期末に全ての児童・生徒用のアク

セスのための情報を一旦リセットし、再度ランダムに設定し直すなど、なりすまし防止とセキュリティの一層の向上を図る予定となっております。

最後に、小学校の宿泊行事ですが、6年生の小学校の日光林間学校については、全ての学校がおかげさまで実施済みとなりました。5年生のセカンドスクールについては、実施を3月に延期している若松小学校と白糸台小学校を除きまして、これも全ての学校で実施済みとなりました。子供たちは非常に喜んでいと報告を受けております。以上です。



◎教育委員報告

○教育長（酒井 泰君） 日程第7、教育委員報告に移ります。活動状況については、別紙のとおりでございます。

まず平原委員、お願いします。

○委員（平原 保君） 12月12日日曜日に、第8回「小学生の税の書道展」展示会及び表彰式に参加しました。昨年度は、コロナ感染拡大の影響により中止された本書道展ですが、今年度の応募作品数は一昨年を上回り、3,320点の作品が応募されていました。展示会場には、いずれも府中市の児童の皆さんが一文字一文字に思いを込めて書いたすばらしい作品が整然と展示されていました。表彰式では、壇上で受賞される小学生の皆さんの緊張しつつも誇らしく喜びに満ちた表情が印象的でした。また、会場のバルトホールには、保護者の皆様、小学校の校長先生方も同席して、児童が受賞される姿を温かく見守っていらっしゃいました。小学校学習指導要領には、書写の指導について、文字を正しく整えて書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活へ積極的に生かす態度を育てることが示されています。この「小学生の税の書道展」の取組を通して、府中市の小学生が毛筆の書写に親しみ、真剣に取り組むとともに、税について関心を持ち、理解を深める機会になったことと拝察しています。

また、教育長からも報告がありましたが、各小・中学校の学校だよりを拝見しますと、日光林間学校やセカンドスクールなど、宿泊学習の様子が紹介されています。実施の時期や期間、活動内容は、当初計画を修正しながら、昨年度実施できなかった宿泊学習が無事に実施できて何よりです。活動の様子を紹介する文面や写真から、子供たちが大自然の中で活動したり、友情を深めたりして、かけがえのない時間を過ごせたことが伝わってきます。また、コロナ感染対策に配慮しつつ、創意工夫をしてスポーツフェスティバル、体育発表会など運動会の名称を変えて行い、展覧会、合唱祭などが開催されました。学校行事を通して、児童・生徒が成就感や達成感を持ち、心身ともに成長された様子も捉えることができました。

コロナ感染は予断を許さない状況ですが、3学期も学校行事を含めて充実した教育活動が推進できることを願っています。以上です。

○教育長（酒井 泰君） ありがとうございます。続きまして、新島委員、お願いします。

○委員（新島 香君） 感染症拡大がようやく止まり、1か月以上も小康状態が続いていることはとても喜ばしいことではありますが、心から安心するには至らず、約2年間続けてきた新しい生活様式は、思った以上に根づいているように感じます。そして、その中で、学校生活も全く同じとはいかなくても、行事や校外学習など多くのことが実施できるようになったことは、児童・生徒、教職員の笑顔を増やし、校内に活気が戻り、よい雰囲気をつくつ

ているように感じます。

学校だよりを拝見しても、まさに今の時代を象徴するように、授業参観や保護者観覧を可能にした行事も、分散型にしたり、オンラインを活用するなど、これからますます多様化するであろう時代の始まりを同時に感じます。不測の事態が起きたときも、冷静にこれまでの経験と知識を生かし、考え行動をするということを、まさに実行したこの日々が、結果的には、子供たちにもよい学びにつながれば幸いと思っています。

今年もあと僅かですが、そして、今年度も集大成の3学期を残すばかりです。願わくばこのまま感染症がなくなってほしいところですが、いましばらく気を引き締め、今年度の修了式・卒業式を迎えられるよう続けていきたいと思っています。

今年も皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。以上です。

○教育長（酒井 泰君） ありがとうございました。続きまして、増渕委員、お願いします。

○委員（増渕達夫君） 私も学校だよりからお話したいと思うのですが、今までお話があったように、多くの学校で宿泊行事や遠足、展覧会についての報告がありました。また、学校評価のことや11月のふれあい月間の取組、そしてとても印象に残ったのは、府中第四中学校が大分の全日本合唱コンクールに出場し、その引率に行かれた副校長先生の記事など、とても印象深く拝読しました。こういったことがそれぞれの学年で適正に的確に行われることはとても大切なことですので、昨年度できなかつたことは本当に残念だと思っています。

感染が若干収まったところでこうしたことができるようになってきたというのは、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて先生方が献身的に努力をしてきたことにより、校内のクラスター発生がなく、感染者の減少とともに、普通の通常に近い形で学校の姿が戻ってきつつあると理解をしています。ということは、教員の働き方改革がずっと求められている一方で、こういった不測の事態のときには大きな負担が余儀なくされることがあるということかと思っています。これはやむを得ないことだと思いますけれども、改めて学校教育を推進する要は、学校の教員、一人一人の教員ですので、その先生方がきちんと誇りを持って仕事に取り組めるような、そんな環境づくりが必要だと思っています。

11月に中教審で、「『令和の日本型学校教育』を担う新たな教師の学びの詩型の実現に向けて」（審議まとめ）」が出されていますけれども、学校の先生方が謙虚に自分を振り返りながら学び続けることができる環境や、教員が相互に協力しながら、指摘すべきことは的確に指摘し合える風土をつくっていく必要があると改めて感じています。学校の管理職ももちろんですが、サービス監督権を持つ市の教育委員会、それから、任命権者である都の教育委員会、それぞれが役割を果たしていく必要があると思っていますので、引き続き教員の働き方改革、それから、資質能力の向上に向けた取組を推進していかなければならないことを改めて感じた次第です。以上です。

○教育長（酒井 泰君） ありがとうございました。

それでは、これで令和3年第12回府中市教育委員会定例会を閉会いたします。

◇
午後3時32分閉会

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証
するため、ここに署名する。

令和4年2月7日

府中市教育委員会教育長

酒井 泰

府中市教育委員会委員

平原 保